

【防災メモ】

～ 陸域の浅い地震 ～

日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかりあっており、岩盤の中に大きなひずみが蓄えられています。そのため、陸と海のプレート境界や海のプレート内のほか、陸のプレート内の浅い所（深さ約20kmより浅い所）でも多くの地震が発生します。これを「陸域の浅い地震」と呼びます。

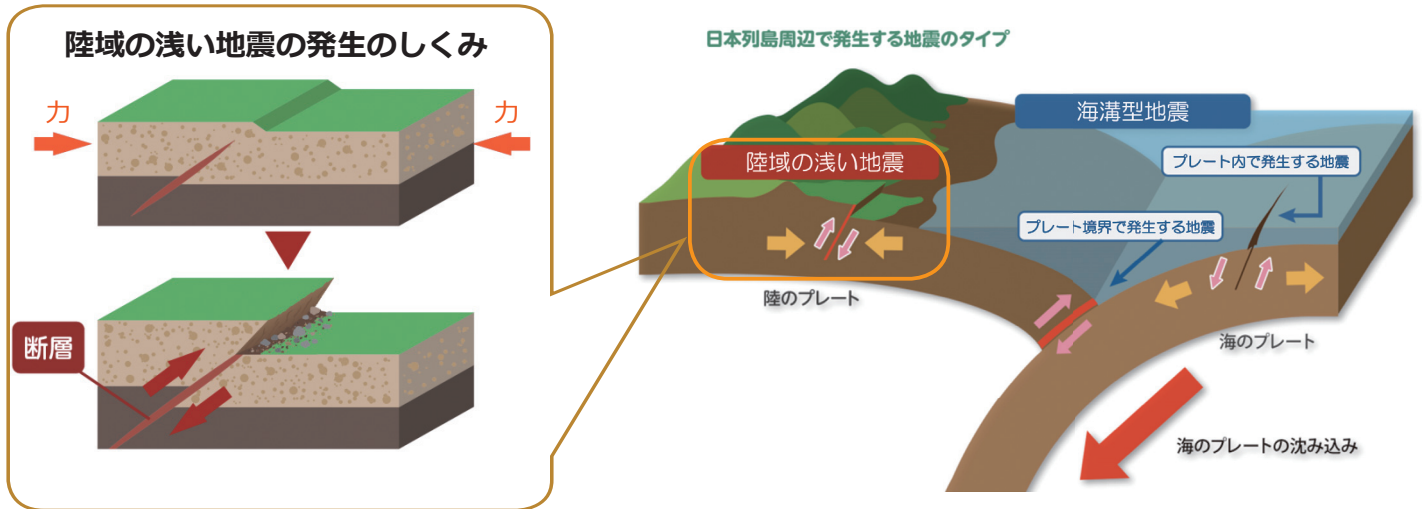


図1：陸域の浅い地震の発生の仕組み

過去に繰り返し地震を起こし、将来も地震を起こすと考えられている断層は「活断層」と呼ばれています。規模の大きい地震が発生する可能性がある主要な活断層については、政府の地震調査研究推進本部によって、将来の地震発生予測や規模の長期評価が行われています。

(https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/major_active_fault/)

陸域の浅い地震は、現在確認されている活断層だけで起こるとは限りません。断層のずれが地表に現れていなかったり、地表に現れていたが浸食や土壌の堆積により、その痕跡が不明瞭になった等の理由で確認されていない断層が多数存在すると言われてしています。北海道地方でも活断層が確認されていない場所で被害を伴う地震が数多く発生しています。陸域の浅い地震は日本中のどこで発生しても不思議ではありません。

また、陸域の浅い地震は海域の地震と比べて、震源と居住地との距離が近いいため被害が大きくなりやすいという特徴があります。

震源に近い地域では緊急地震速報が間に合わず、発表前に強い揺れに見舞われることもあります。

これらのことから、陸域の浅い地震に対しては日頃からの備えが重要です。

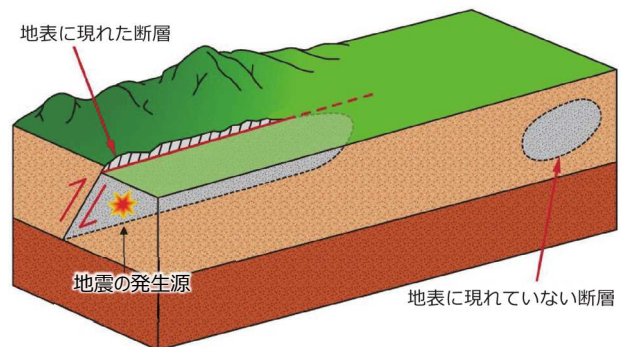


図2：地表に現れていない断層

(図1、2はリーフレット「活断層の地震に備える」(文部科学省・気象庁)より)

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/katsudansou/katsudansou_hokkaido.pdf)